

2023年度 箕面市行政視察報告書

(民生常任委員会)

1 日程

2024年2月8日(木)～2月9日(金)

2 視察先

(1) 愛知県豊川市(豊川市役所)

視察項目	「重層的支援体制整備事業」について
視察目的	先進市の具体的取組みについて、とりわけCSWの配置や地域福祉の取組み状況、関係機関との連携等を学ぶ

(2) 愛知県豊田市(豊田市役所)

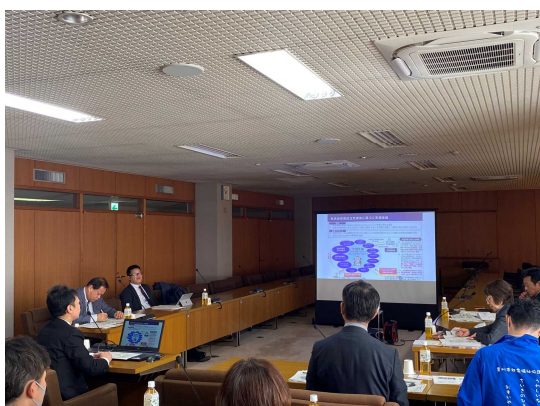
視察項目	・「認知症施策」について ・「重層的支援体制」について
視察目的	認知症施策…先進市における具体的な認知症対策事業を学び、箕面市への施策提案に活かす 重層的支援体制…重層的支援体制や居場所づくり、アウトリーチ等の先進的取組みを学ぶ

3 参加者

委員	中西智子委員長、桃山悟副委員長、名手宏樹委員、中嶋三四郎委員
----	--------------------------------

(1) 愛知県豊川市

項目	内容	備考
愛知県豊川市について	総人口 178,293 人、総世帯数 76,733 世帯 (2024 年 1 月 1 日現在)	
重層的支援体制の整備について	市内 4 カ所の市社会福祉協議会に委託した地域包括支援センターに平成 17 年 (2005 年) に 2 人の CSW を配し、平成 29 年 (2017 年) には 10 人増員、さらに 1 名の地域共生推進員を増員配置してきた。高齢者の課題だけでなく、地域の分野を問わない相談に対応している。CSW は今後も令和 7 年 (2025 年) 社協職員 1 名、令和 8 年 (2026 年) に市の職員の 1 名増員を予定。	説明 福祉部・地域福祉課長、CSW 兼地域共生推進員ほか 3 名
社会福祉協議会での具体的な実施事業について	4 つの地域包括支援センター「福祉相談センター」に職員 10 名から 15 人の内 CSW を 2 名から 4 人を配置し、高齢者の課題だけでなく分野を問わない相談に対応。4 つの支援センターには出張所を含め 10 カ所の相談窓口を設け、介護、障害、困窮、子育て、その他の各事業の隙間を埋めるために CSW を中心に重層的支援体制整備事業が推進されている。	説明 豊川市社会福祉協議会地域支援課主幹・南部福祉相談センター所長
重層的支援体制整備事業の実施状況と今後の課題について	相談件数は令和 3 年 (2021 年) 1,346 件から令和 5 年 (2023 年) 上半期で 1,607 件に増え職員施設の増員、増設の必要性がある。義務教育終了後の引きこもりなどの支援体制は「つながりの場」や「就労支援事業所」など地域資源の活用の広がりが必要となっている。	同上



所感：市から委託された市内包括支援センター 4 カ所すべてが社協によって 10 人から 15 人の職員体制で運営され、重層的支援体制整備の以前から CSW の配置が行なわれ、10 人に拡充されてきた。その上に地域共生推進員を配置し、地域資源の発掘を進め、市の担当課との連携をとった上で体制がつけられている。市長公約でさらなる CSW の増員も計画され、手の届きにくい青年分野にも地域の様々な資源の活用で支援の場を広げようと努力されている。地域の声に応え「支援拒否の方」の対応も生活困窮者支援会議、「支援同意の方」は重層的支援会議で相互共有、連携対応され重層的支援体制づくりを進める行政の意欲を感じた。

(2) 愛知県豊田市

項目	内容	備考
愛知県豊田市について	総人口：416,146人、総世帯数：186,071世帯 高齢者人口：103,089人 高齢化率：24.8%（2024年1月1日現在）	
認知症施策について ①体制について	地域包括支援センターは中学校区ごとに28カ所、基幹包括支援センターは1カ所。1圏域は3,000人で包括職員を認知症地域支援推進員として配置している。8期計画で重点施策「社会全体で取組む」と位置付ける。(財源不足分は一般会計から繰入)	説明 福祉部 高齢福祉課課長 同担当長
認知症施策について ②市の特色的な事業について	若年性認知症支援策に力を注ぎ、福祉的就労のほか、企業の啓発と就労希望者とのマッチング、社会参加支援に取り組んでいる。分かりやすい認知症ケアパス等を作成、配布している。ピアサポート事業により、本人や家族に支援を行い、安心して暮らせる地域をめざす。	同上
重層的支援について ①体制について	「地域福利は福祉だけの問題だけでない」と市長のトップダウンにより、総合計画に反映させつつ、地域包括や福祉部局だけでなく、地域振興部局にも窓口の位置づけを行う・重層的支援は全世代型、属性に拘らず相談を受け、それぞれの部署で取組むべきと職員の意識改革を図る組織体制へ。5事業は社協に委託し、官民連携（84の民間団体が登録、連携）のコーディネートも行う。	説明 福祉部 福祉総合相談課課長ほか
重層的支援について ②CSWの取組み	「福祉の相談窓口」を開設し、社協のCSWを配置。社協は地域づくり（見守り）と相談窓口の両輪で、孤立しないよう支え合う。市の福祉相談窓口は後方支援。モデル地区（支所）を2カ所から5カ所へ増設。例えば、市民が支所へ来所した際、相談窓口があれば支援につながる例など。	同上



所感：超高齢社会、また多様で複合的な課題がまん延する社会において、どこの自治体も対策に迫られ、視察テーマである「認知症施策」や「重層的支援体制の構築」は重要課題の一つとなっている。豊田市の認知症施策は政策的に人とお金を配分しており、また重層的支援の推進については2017年度からモデル事業とし「健康と福祉の相談窓口」を開設して、ノウハウを積み上げてきた経緯がある。地域福祉とまちづくりをセットで捉えた首長の政策決定と組織体制づくりについて、改めて考えさせられた。